



▲餅つきを行う大草保育園の園児たち



▲正月用のしめ縄作りの様子

地域の話題

大草校区

伝統文化・技術の継承と学びの場

豊かな自然を大切にし、「一つの大きな家族のように支え合って大きな輪となり、人の和で安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指す、大草コミュニティ協議会からお便りが届きました。

学びの場「ふれあい工房」

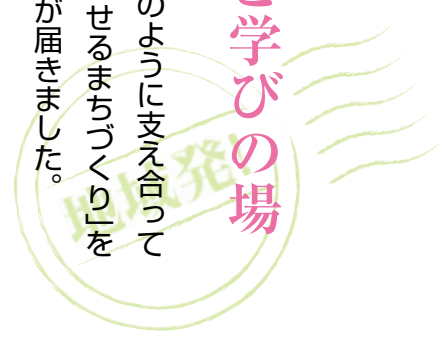
大草市民館の駐車場南にこぢんまりとした建物があります。これは平成11年度に建てられた「ふれあい工房」で、ここからさまざまな文化が発信・継承されています。



●ふれあい工房

歴史のある「わら工芸教室」

40年以上の歴史のある「わら工芸教室」では、正月用しめ縄作り、お祝いの宝船、毎年の干支の作品などを作っています。もちろん、わらは大草産の稲わらです。できた作品は



大草市民館まつりに展示するほか、福祉のつどいにバザー協力品として提供しています。メインは正月用しめ縄作りで、若い世代に継承して欲しいという願いを込め、毎年12月にしめ縄作り教室を開いています。

近年では、シエルマよしごなど各方面から講師依頼があり、田原市全域へと活動を広げています。

大草の粘土を使う「陶芸教室」

大草は昔から焼き物の盛んな地域でした。今から約1000年前の古窯が校区内にいくつも残っています。中でも惣作古窯跡から出土した「ざれ歌碗」は市有形文化財に指定されています。

そんな伝統を受け継ぐ「陶芸教室」では、年に約4回、作品を完成さ

せています。使う土は大草で採れた粘土で、これに信楽の土を混ぜています。

自分たちが楽しむだけでなく、小学生や中学生対象の教室も開いています。大草の良さを土の感覚とともに受け継いでもらいたいです。



●陶芸教室

昔ながらの「餅つき会」

このほか、工房自体を使った行事としては保育園の保護者会が中心となつて行う「餅つき会」があります。熟友会（老人会）の皆さんの指導を受け、石臼ときねを使い、昔ながらの餅つきを行っています。

若い保護者の皆さんは、園児たちと一緒に餅つきを体験します。皆で和気あいあいとした、できたてのお餅のおいしさは格別です。

これらの三つの活動は、大草の自然の恵みや温かな人とのふれあいや生まれた大草校区の財産です。これからも若い世代へと継承していきたいです。